

令和 3 年度 第 4 ステージ大学塾 開催案内

新視点でみる 鎌倉幕府「開創」の真実

令和 4 年度 NHK 大河ドラマは「鎌倉殿の 13 人」です。初代鎌倉殿の源頼朝はいかにして本格的な武家政権を樹立・確立したのか。そこには 13 人から抜きん出る形で執権となった北条義時の存在がありました。

頼朝の妻政子や舅時政ほか 幕府開創に貢献した有力御家人らの活躍と幕府抗争史の謎を新視点で見えていきます。



北条義時画像
(承久記絵巻. 京都文化博物館蔵)

毎回 日曜日 午後 2 時～午後 4 時

回	月日	講義内容	講師
第 1 回	1 月 16 日	幕府とは何なのか？ 源平合戦から頼朝の死まで	跡部 蛮 (あとべ・ぼん) 氏 ・歴史研究家/博士(文学) ・江戸ぶら会会長 (足立区在住)
第 2 回	1 月 23 日	北条氏ではなかった？ 執権政治の創始者義時の謎	
第 3 回	1 月 30 日	政子は 4 代将軍なのか？ 群雄列伝	

挨拶と新刊著書のご案内 当会顧問: 崎山みゆき 氏

「人生 100 年時代」となった今、私たち生涯学習支援者の役割は、より大きくなりました。生きがいのみならず、仕事や介護のために学び続けなくてはならないものの、その方法論には前例がありません。みなさんは、楽学の会の一員として、どのようなことをお考えですか。今一度、話し合いたいですね。

写真の最新刊は、中年期の生涯学習に的を当てました。タイトルで「働き方」とうたったのは、学びは趣味・教養のためだけではなく、仕事にも繋がることを伝えるためです。自分の専門分野「ジェロントロジー」(加齢学・老年学)がベースになっています。ジェロントロジーでは、「老い」を人生の発達であると捉えます。知識・経験をつみ重ねてゆくことで、人間は豊かに成熟します。身体機能や心の衰えもありますが、それをカバーする知恵がつかます。但し、これは学ぶ習慣があってこそのこと。こうして考えると、私たちの役割が如何に重いかがわかります。

講師・コンサルタントという仕事柄、自己紹介の機会が多い私が、必ず誇りをもって触れる一言があります。「楽学の会の顧問」です。これからも、皆さんと共に、会の名を誇り高く元氣よく口にできるように続けてゆきましょう。

(株式会社 自分楽 代表取締役 崎山みゆき)



令和3年 大学塾 第3ステージ 開催報告

徳川家康研究の最前線「東照神君」の実像

講師：平野明夫 氏 國學院大學、駒澤大学講師

10月1日から「非常事態宣言」が解除されたが、十分なコロナ対策を行って、10月1日、15日、29日と金曜日の3回開催された。応募者は31名、受講者は22名、出席者は第1回20名、第2回22名、第3回22名で延べ64名であった。特に、10月1日は台風16号が関東地方に接近し暴風雨であったが多数の方に出席いただいた。

第1回は「戦国大名としての徳川家康」

私達が学んだ徳川家康は、幼少時駿河の国の今川義元の人質として取られるなど苦難に耐えながら天下を取った物語である。しかし、このような歴史は家康の没後、天下人に付度して書かれたもので家康及び松平家に都合よく捏造されている。勝者の歴史としてやむを得ないが、最近は当時の手紙、文章を解説し事実が解明されつつある。

今回は、信長から家康、家康から信長への手紙を読むことで二人の上下関係の変化の説明があった。手紙の最後の日付と相手の名前的高低差により目上・対等・目下宛での区分が読み取れるのである。これにより、信長は家康を当初目上に見ていたが長篠の戦い以後は目下に見るよう変化したと解釈できる。

第2回は「豊臣大名としての徳川家康」

秀吉が天下を取った後、家康を警戒し遠ざけていたという説がある。しかし、「豊臣秀吉知行方目録」を見ると、秀吉は家康に伊勢の国や近江の国を与えている。これでは、大阪城にいる秀吉を狙う道筋が出来て危険だという以前の考え方があった。しかし、秀吉はこれらの領地を与えると共に信頼できる側近のみに与える「羽柴」姓を許可し、羽柴家康と名乗らせている。このことから、秀吉は家康を側近として信頼していたということが伺える。

第3回「天下人としての徳川家康」

徳川軍の関ヶ原の戦いの勝因は小早川秀秋の裏切りで、秀秋は裏切りを約束しながらも、戦い開始後も松尾山の陣から動かなかった。そこで家康は我慢の限界と秀秋に鉄砲を打ち込むと豊臣陣営に突撃したと学んだ。これは明治30年代の陸軍参謀本部作成の「関ヶ原の戦い」両軍配置図によって解釈されていた。しかし、当時の家康の家臣石川康通等の書状には、「秀秋等、戦いが開始されるや否や、即刻裏切り行動を起こし・・・」と書かれている。このように、関ヶ原の戦いに関してもまだ事実と異なることが多く発見されてくると思われる、との説明であった。

受講者の声

・古文書の説明があったので非常に分かりやすかった。・理論立てていてわかり易い。・資料が多く大変ありがたい。・いくつになっても知らなかったことを知るのは楽しい。

当時の手紙、文章を読み込むことで信長、秀吉、家康関係の歴史の事実を知ることが出来たのは有意義であった。参加者の方にも概ねご満足いただけた内容であった。

(榊原金市)



令和3年度 大学塾 第3ステージ開催報告

幕末の足立と桜田門外の変・徳川埋蔵金・新選組

9月30日でコロナ感染症の緊急事態宣言が解除され、コロナ対策を継続して行いながら、研修室1にて10月2日(土)・23日(土)・31日(日)の3回にわたり開催された。講師が3回とも異なり、調整のため変則的な開催日となった。応募者はハガキ38名・メール26名・計64名で抽選の上54名に受講券を発行した。受講者は53名で、第1回48名・第2回43名・第3回40名であった。



第1回は小説「紅紫の館」の作者で、小説家・登山家・写真家の穂高健一氏を講師に迎え、「紅紫の館」の舞台となった、我々も知っている幕末の数々の出来事と、足立で農家(新田開発)と武士(江戸城の北東部)の守りの両面の役割を担った郷土・日比谷健次郎の生き生きとした活躍が紹介された。



第2回は日比谷家の子孫である日比谷二郎氏から、日比谷家の屋敷や数々の文化財について紹介がなされた。特に屋敷・甲冑・雛人形・狩野派の絵画・独語辞典「和独対訳辞林」が印象的であった。

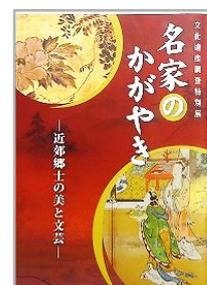


第3回は足立区立郷土博物館学芸員の多田文夫氏より、江戸時代の足立区における郷土による新田開発や残された文化財から、日比谷家に止まらず、幕末の足立の郷土は文化の担い手として狩野派の絵画を伝えるなど、文化的にも経済的にも極めて豊かな状況であったことが説明された。受講者のご意見、郷土愛の持ちづらい足立区民がぜひ知ってもらいたい史実だと思います。足立区内の歴史、文化に興味があります。かつて足立区の女性史「葦笛の唄」の編集に関わった関係から足立の歴史を深めたいと思っていました。



今回はその好機であったと思いました。日比谷家と大変近いところに住んでいる関係で親近感を感じました。足立に住んで50年。地元の歴史を知り大変良かったです。足立に郷土が居たということ、文化財が多く残っていることに、区民として誇りを感じる。市販されている書物には書かれていない史実やエピソードが聞けて大変興味深く面白く受講させて頂きました。内容充実です。「紅紫の館」を読みもっと詳しく知りたい。足立区の歴史を知る新鮮な内容でした。

この講座は郷土博物館の文化遺産調査特別展「名家のかがやき」(令和2年11月29日)と小説「紅紫の館」(令和3年2月発刊)の2つの題材を基に企画された。足立区民にもあまり知られていなかった、足立区の郷土の活躍が、幕末の数々の出来事に関連していたことと、足立区の江戸時代の文化水準が非常に高かったことを足立区民の方々に知って頂くことができ、期待以上の評価が得られた。



(糸井史郎)

「足立区女性団体連合会の活動について」

講師：足立区女性団体連合会々長 片野 和恵 様

11月の月例会は足立区女性団体連合会会長の片野和恵さんに講演していただきました。足立区女性団体連合会（以下女団連）は足立区基本構想で「婦人会館建設」が提唱され、1986年足立区の指導の下に区内の女性グループ・団体が集まり足立区婦人連合会として発足した組織だそうです。1988年に完成した足立区婦人総合センター（現在のエル・ソフィア）を中心に活動されており、途中から名称変更し35年間の歴史があります。



片野さんは結婚して横浜市から足立区に居住し、足立区の貧困・教育の格差に驚かれたそうです。ご自身では英語教室の仕事を持ちながら子どもの貧困問題に取り組み、その取り組みから子どもの貧困問題は社会構造による女性問題でもあると認識され、女団連の役割は「女性を力づける団体であり続けたい」と思われたそうです。

女団連の加入は3年以上の活動歴がある団体ですが、現在74団体が登録しているそうで、部会は次の9部会があります。①学習…生涯学習 ②環境…ゴミ減量等 ③教育…子どもの教育 ④健康…健康づくり ⑤参画推進…共同参画 ⑥地域活動…公益活動 ⑦働く女性 ⑧彩の会…稼働・手芸・絵画・書道等 ⑨文化きらめき…舞踊・演劇・音楽等。女団連は子どもの貧困問題学習会、こども夢プロジェクトなどの子ども支援活動や災害時の被災地支援活動を積極的に行っています。また、毎年足立区との共催でL・フェスタ（元女性フェスティバル）を開催していますが、昨年はコロナ禍のためフェスティバルは中止し、掲示物の展示、各部会の活動発表などのDV事業でした。今年度も集会は難しいので、オンライン講演のYouTube配信と展示を行うとのことです。組織の課題としては、女団連は外から見えにくく知名度が低い、会員の高齢化による担い手不足があるとのことです。そして、組織について経済学者のチェスター・バーナードの組織論を述べられました。



- 1、組織目的…団体として何をするか、共通の目的をもっていること。
- 2、貢献意識…組織は自分たちが作り、動かす。お互いに協力する意思を持っていること。
- 3、情報共有…聞く、伝える、発信する。円滑なコミュニケーションが取れること。

まさに楽学の会も高齢化による担い手不足など、同じ課題を抱えており、組織論は全て当てはまります。「高齢化が悪いのではない、膠着化が悪いのだ」と言われ、次の世代に繋いでいくために他のNPO団体との連携も視野にしたいとのことです。

片野さんは女団連の会長に就任されてからまだ1年余りですが、仕事をしながら女団連会長の複数の当職もこなし、女団連のことを知ってもらうためにいろんな所へ出向かれてパワフルに活動されておられます。「課題を解決するのが好き。終わりが無いし、失敗から学ぶ」という片野さんの姿勢は、SDGs 5ジェンダー平等、誰もが生きやすい社会づくりに力強く貢献されている方だと改めて認識いたしました。非常にお忙しいなか、楽学の会でご講演いただきありがとうございました。私たち楽学の会会員は力を頂きました。

（ボランティア活動推進部 林 令子）

令和3年11月運営委員会報告(11月1日)

代表挨拶：報告および提案

1. あだち区民大学塾講座について

緊急事態宣言が解除され、久々に2講座を開催することが出来、ありがとうございました。今月も2講座の開催予定でしたが、「印象派の絵画を楽しむ」の講座は講師の入院により中止となってしまいました。受講申込も多く、回復後の再企画をお願い致します。よって、11月は「わかりやすい遺産相続と後見制度」の講座のみとなりました。「やまとことば」の返金処理は対象者26名あり、10/29にて全て終了しました。

2. 月例会について

日時：11月15日(月)午後3時～「女性団体の活動について」
今月も外部から講師をお招きしての講演会が予定されています。
皆様の積極的な参加をお待ちしています。

3. その他

① 国社研(国立教育政策研究所)セミナーのご案内

令和3年度のテーマは
多様な人々が共に学び合い、認め合う地域社会へ～持続可能なボランティア活動に向けて～
開催日：12月13日～12月14日、今年は全てオンラインでの開催となっています。
初日に昭和女子大学で当会顧問の興梠先生の基調講演があります。
参加ご希望の方は私の方にお申込下さい。(11月15日まで先着順に受付)

② 忘年会、新年会について

忘年会、新年会の季節ですが、ワクチン接種の効果で感染者も急激に減少し、日常に戻りつつはありますが、まだまだ多くの人が集まり飲食するのは抵抗があります。従いまして、今年も全体が集まる忘年会、新年会は自粛したいと思います。

議 事

(1) 情報交換

(2) 月例会開催について

11月15日(月)：講演会 講師：足立区女性団体連合会々長 片野和恵様
「女性団体の活動について」 *会員への参加呼びかけ →ボラ部

(3) あだち区民大学塾(検討会議・企画会議・地域協働講座)

「徳川家康」 応募者31名 平野明夫 講師 10/1, 15, 29
「幕末の足立」 応募者65名 穂高健一、日比谷二郎、多田文夫 講師
「印象派の絵画」 応募者45名 島田紀夫 講師 11/14, 21, 28 → 講師入院のため中止
「遺産相続」 応募者43名 小出康夫 講師 11/19, 26 →会場、講堂に変更

(4) 委託事業について

足立区勤労福祉サービスセンターより講座開催の要請あり →学習支援部
開催日：令和4年3月3日、4日
テーマ：あだち区民大学塾の11月講座「遺産相続と後見制度」

(5) 各部局・PTからの報告および提案

- ① 学習支援部 11/15 部会、
- ② ボランティア活動推進部 11/9 部会、 11/15 月例会、
- ③ 事務局 ニュース発送 11/2、11/16 部会、
- ④ 受託事業グループ 足立区勤労福祉サービスセンター「ゆう」受託提案
- ⑤ 広報グループ

(6) その他

「社会教育」11月号 ロッカーに
国社研(国立教育政策研究所)セミナーのご案内
当会顧問の興梠先生の基調講演 12/13日 →希望者は、代表まで申込

次回運営委員会 12月1日(水) 14:30 から(研4)

生涯学習センター 講座情報

◎ 講座名：シニアのためのスマホ体験

オンライン診療ってなあに？

日時：1月13日(木) 午後1時30分～3時
対象：スマートフォンでアプリのインストールができるおおむね60歳以上の方
会場：5階 研修室1
受講料：無料
定員：20名(事前申込先着順)
講師：ドコモショップ北千住店
スマホ講座講師(株式会社 芝電機工業)
内容：生活を便利にするスマートフォンの活用の1つとして、インターネットを通じて病院の診察が受けられる「オンライン診療」のしくみについてご説明します。また診療・服薬指導アプリの一つである「CLINICS(クリニクス)」を例に、ご自身のスマートフォンに実際にアプリをインストールして、オンライン診療アプリの基本的な使用方法を体験していただきます。

◎ 講座名：日本のお寺シリーズ

歴史で語る寺院の魅力「増上寺」

日時：1月29日(土)午前10時～午前11時30分
対象：16歳以上の方
会場：4階 講堂
受講料：800円(一律、講座当日にお支払)
定員：60名(事前申込先着順)
講師：生駒 哲郎 氏(東京大学史料編纂所)
内容：日本に古来から存在し時代毎に役割が変わっていくお寺、それぞれの歴史を学ぶ事で日本の仏教の形と力、権力との繋がりなどを理解していきます。何故この場所なのか？何故今の形なのか？本尊の由来は？など様々な視点からお寺を見ることで日本独自の仏教の発展を知って貰います。仏教をより深く知り、日本の歴史や文化への興味を持っていただきます。

お申し込みは：電話(03-5813-3730)
または直接窓口
インターネット[近所deまなびナビ]で検索
イベント・講座情報→講座予約システム

12月「月例会」のご案内

月例会は次の通りです。

日時：12月15日(水) 午後3時～5時
場所：生涯学習センター 5階 研修室4
テーマ：「会員の活動紹介」
発表者：河野信子さん 榊原金市さん

皆様の積極的な参加をお待ちしています。

(ボランティア活動推進部)

楽学インフォメーション ★会合のお知らせ★

- ◎ 運営委員会
12月1日(水) 午後2時半～4時 研修室4
- ◎ 月例会
12月15日(水) 午後3時～5時 研修室4
- ◎ 学習支援部
12月15日(水) 午後1時～2時 ワークルーム
- ◎ ボランティア活動推進部
12月7日(火) 午後2時～4時 ワークルーム
- ◎ 事務局
12月2日(木) 午後2時～4時 ニュース発送
12月7日(火) 午後2時～4時 ワークルーム
- ◎ 広報グループ
メール会議
- ◎ 大学塾講座検討会議
12月15日(水) 午後2時～3時 研修室4
- ◎ 大学塾講座企画会議
12月1日(水) 午後1時半～2時半 研修室4
- ◎ 生涯学習センター 休館日
12月13日(月)

★お問い合わせ&ご意見等

- ◎ 「楽学の会」の運営に関するお問合せ
事務局 江川武男 電話:090-3105-8140
E-Mail : takeo-wg@cj9.so-net.ne.jp
- ◎ 「ホームページ」に関するお問合せ
広報 G 神戸 明 電話：03-3606-0058

編集後記

COP26「グラスゴー合意」文書 日本の行方

合意文書では、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)報告書の知見を歓迎。石炭火力発電の段階的削減に向けて努力することが盛り込まれ、温暖化による破局的な事態を避ける為の気温上昇を1.5度に抑える努力を迫る決議がなされた。IPCCは、温室効果ガスの排出による**気候変動**と、地震、噴火、太陽活動などの自然要因による**異常気象**のほか未知の**感染症**の流行や世界での**地域間紛争**の激化等も報告。今後、各国が施策を具体的に実行できるかが問われる。日本は、経済発展を目指す上で効率は悪いが安価で安定した石炭火力発電に頼らざるを得ない面もあり2030年度まで電源構成を石炭火力に頼る計画。先進国が「脱石炭化」を進める中、再生可能エネルギーの導入拡大などをより一層迫られる可能性が有る。(金子記)



足立区:EANA 環境活動団体交流会